

お酒の方にもう一品！大草胃腸散もおすすめを！

◎昨今、福井製薬様の「ミラグレーン錠」が、二日酔い対策や肝機能を改善したい方など、お酒を飲まれる方に大人気なのはご存知の通りです。が、飲酒による影響は肝臓だけではありません！飲酒は胃腸にも大きく影響します！ぜひ「大草胃腸散」も一緒にご紹介下さい！

◎お酒の濃度と量が適量を超えると消化管に障害を起こします。口から摂取されたアルコールは食道を通り、胃で20%、小腸から残りの80%が吸収され体内に入り、肝臓で代謝されます。アルコールは、消化管に直接障害を起こすほかに、粘膜の血流や消化液などに影響を与え、間接的にも障害を起こします。また消化管平滑筋内の蛋白質や神経を障害し、消化管の運動機能に影響を与えます。さらに発癌（がん）作用を有すると考えられています。

1・アルコールと食道

胃食道逆流症（逆流性食道炎） アルコールは胃の内容物の食道への逆流を防ぐための下部食道括約筋（LES）圧を緩めたり、食道の蠕動運動を低下させて胃酸の逆流を引き起こします。胃酸に曝露された食道は、ただれて食道炎となります。胸やけとして感じることもあります。

2・アルコールと胃・十二指腸

急性胃粘膜病変（AGML） 摂取するアルコールが大量・高濃度になると、胃酸による自己消化を防ぐ胃の粘膜防御機構が壊れ、また直接的に胃粘膜障害（血流障害）がおこるなどして、浅い潰瘍や出血性のただれ（びらん）が多発します。腹痛や吐血・血便・嘔吐などの症状が現れます。

胃潰瘍・十二指腸潰 急性胃粘膜病変と同様に飲酒者に発症しやすく、喫煙とともに、ピロリ菌感染とは独立した危険因子として知られています。



3・アルコールと小腸・大腸

下痢 アルコールを大量に摂取すると、水分や電解質（ナトリウム・クロル）の腸から体への吸収が悪くなり、水分と電解質の排出量が増えます。さらに糖や脂肪の分解・吸収も低下し、下痢を起こしやすくなります。

大腸ポリープ アルコール長期大量摂取者は、大腸ポリープができやすいと言われています。食生活の偏りなどの関係が考えられています。

痔核 アルコール摂取により、血液のうっ滞がおこり悪化しやすくなります。これに下痢が加わると症状は強くなります。アルコール性肝硬変になると門脈圧亢進に伴い直腸に血管が生じ、痔核となります。

（厚生労働省 e-ヘルスネット アルコールの消化管への影響 より）

